

平成 25 年度(第 13 回) 私立短大入試広報担当者研修会

分科会 : G 3

運営委員 : 大手前短期大学 島崎千江子

運営委員 : 和泉短期大学 土橋正文

G 3 分科会報告書

■分科会研修1 7月4日(木)13:00~17:00

- ・分科会オリエンテーション、スケジュール確認
- ・各短大紹介および自己紹介(1分/人) ⇒ 自己紹介・大学自慢シート配布
- ・小グループ分け、机セッティング、講演の振り返り、仮想大学選択
- ・プレゼンのポイント説明、選択した仮想大学での広報戦略、広報予算配分をBS法、KJ法により
ポストイット書き出し、模造紙に書き出し
- ・ミニプレゼンを行う(1グループ5分を目安)
途中でも他のグループのプレゼンを見て、自分のグループの振り返りを行い、不足分を補ってもらう。
- ・明日以降の進行およびスケジュールの確認を行い、2日目の情報交換懇談会の会費徴収

○ 各グループとも、17:30分まで延長して、明日のプレゼンへの話し合いを活発に行っていた。

分科会研修2 7月5日(金) 9:30 ~ 11:55

- ・プレゼンに向けて最終調整、まとめ。(実際は、始まり開始の9:00から準備をしていた。)
- ・分科会3のA, B, C, Dからプレゼン(1グループ10分間)を行う。プレゼン内容は別記の通り。
- ・全大会用に会場セッティング
- ・各短大の学校案内、グッズの展示および交換
- ・研修会全体の感想(1分/人)、アンケート記入
- ・グループ集合写真を撮って、名残り惜しんで解散した

【プレゼンテーションのポイント】

Aグループ 4名「短大のみ、分野(福祉系100名、保育系200名) 広報予算 4千万円」

横浜子ども福祉短期大学 子ども学科200名、福祉学科100名 キリスト教主義短大
広報戦略の重点項目 - 対面重視、熱意ある広報活動(ツール、HP、OC重視)
交通広告は、使用しない

Bグループ 4名「短大のみ、都市型(看護系80名、医療技術80名) 広報予算 2千万円

谷口医療看護短期大学 看護学科80名、医療技術学科80名 理事長、学長のオーナー校
広報戦略の重点項目 - 新設校のため、ブランド力強化(病院を併設して、実習、就職を強化)
HP、ラジオ広告、SNSにより大学名を浸透させる。
学長の若さをアピールし、自ら高校訪問、求人活動も行う

Cグループ 4名「短大のみ、地域密着型(保育系150名) 広報予算 2千万円

安性保育短期大学 保育学科150名 仏教主義短大 附属幼稚園設置
仏教主義に基づく人間教育、地域に貢献する人財養成
広報戦略の重点項目 - ツール、HP、Web重視、イベント重視、

Dグループ 5名「短期大学のみ、郊外型(福祉系100名、保育系200名) 広報予算 4千万円

広瀬子ども福祉短期大学 保育学科200名、介護福祉学科100名
建学の精神 人の尊厳を大切にす全人的教育

広報戦略の重点項目 — イベント重視(オープンキャンパス、高校訪問)、HP、保護者対策としての新聞
雑誌広告



- 各グループのプレゼンテーションの後、投票(一人につき2票を自分以外のグループに投票)を行った結果、Cグループが11票を得て、第1位を獲得、Bグループが10票を獲得し第2位となり、それぞれに賞品が贈られた。

また、投票用紙には、それぞれ「どこが良かったのか」のコメントを記入してもらった。コメントから浮かび上がったキーワードは、「建学の精神」「人間教育への取り組み」「地域社会との連携」「親しみやすいキャラクター」などであった。

〈総評〉

- ・分科会3グループでの小グループ分けが割とうまくいったように感じた(大学の規模、経験年数、男女など委員同士でやりとりしたため、グループ間の格差がなく、どのグループも平均的に個人個人が意見を述べていた)
 - ・最後の各人の感想から、他大学の教職員と真剣に話し合っているうちに、自大学の課題や他大学の状況が分かり、有意義な時間が過ごせた。
 - ・経験年数が豊かな人にとっては、マンネリ化を防ぐのに役立った。
- 全体を通じて、講演を除けば、分科会は共通した課題が与えられたため、自らが協力して学び、創り上げていく姿勢は、広報担当者として今後につながることを期待したい。
- ・名刺交換だけでなく、大学自慢・自己紹介シートでの自己紹介は、学校ごとの雰囲気が出ていて、非常に良かった。
 - ・2名の教員が参加したが、非常に打ち解けて、教員にとってもいい研修会である。

以 上

